

授 業 概 要

(社会福祉科)

授業科目名 ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ		授業の種類 (☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 川本 公代	実務経験	訪問介護員 4 年 ディスクゴルフ指導員 3 年 レクリエーション・インストラクター 21 年	
授業の回数 3 2 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	(☒ 必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] ・ 地域に関わるソーシャルワークを理解する ・ 社会環境への働きかけを理解する ・ ソーシャルワークの基礎的技術を理解する ・ ソーシャルワークとグループの関係を理解する [授業全体の内容の概要] ・ 相談援助に必要な基礎的技術を養う ・ 相談援助に必要な利用者との関わり方を学ぶ [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・ 地域に関わるソーシャルワークを説明できる ・ 社会環境への働きかけを説明できる ・ ソーシャルワークの過程を説明できる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. ソーシャルワーク専門職とは何か 2. ソーシャルワークのアプローチ 3. ソーシャルワークのアプローチ 4. ソーシャルワークのアプローチ 5. ソーシャルワークの機能と枠組み 6. ソーシャルワークの固有の視点 7. ソーシャルワークの過程 1 導入期① 8. ソーシャルワークの過程 1 導入期② 9. ソーシャルワークの過程 2 アセスメント① 10. ソーシャルワークの過程 2 アセスメント② 11. ソーシャルワークの過程 3 支援計画の作成と実施 12. ソーシャルワークの過程 4 インターベンション 13. ソーシャルワークの過程 4 アフターケア 14. グループワーク 1 15. グループワーク 2			
[使 用 テ キ ス ト・参考文献]	ソーシャルワークの基盤と専門職 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ 学生・教員・実践者のためのソーシャルワーク演習 ミネルヴァ書房		
[単位認定の方法及び基準]	・ 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、期末考查により算出する。 2. 平常点(15%) ・ 提出課題において、到達目標の 6 割以上に達している点を評価する。		

授 業 概 要

(社会福祉科)

授業科目名 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ		授業の種類（ ☒ 講義・演習・実習）	
授業担当者 川本 公代	実務経験	訪問介護員4年 ディスクゴルフ指導員3年 レクリエーション・インストラクター21年	
授業の回数 32回	時間数（単位数） 60時間（2単位）	配当学年・時期 2年・後期	（ ☒ 必修・選択）
〔授業の目的・ねらい〕 ・地域に関わるソーシャルワークを理解する ・社会環境への働きかけを理解する ・ソーシャルワークの基礎的技術を理解する ・ソーシャルワークとグループの関係を理解する 〔授業全体の内容の概要〕 ・相談援助に必要な基礎的技術を養う ・相談援助に必要な利用者との関わり方を学ぶ 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 ・地域に関わるソーシャルワークを説明できる ・社会環境への働きかけを説明できる ・面接の技術を理解し説明できる ・ソーシャルワークにおける記録について説明できる ・ソーシャルワークの過程を説明できる			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 コマ数			
1. ソーシャルワーク専門職とは何か 2. 就労のする分野の現状と課題 3. 諸外国におけるソーシャルワークの動向 4. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク 5. 総合的かつ包括的な支援の意義と内容 6. 多職種連携とチームワークの意義と内容 7. 人と環境の相互作用とソーシャルワークの射程 8. エコマップ 9. ソーシャルワークの過程1 導入期① 10. ソーシャルワークの過程1 導入期② 11. ソーシャルワークの過程2 アセスメント① 12. ソーシャルワークの過程2 アセスメント② 13. ソーシャルワークの過程3 支援計画の作成と実施1 14. ソーシャルワークの過程4 モニタリング 15. ソーシャルワークの過程4 アフターケア 16. 期末考査		17. ケアマネジメント 18. グループとソーシャルワーク 19. グループの理解 20. コミュニティとソーシャルワーク 21. 地域の理解 22. スーパービジョンとソーシャルワーク 23. スーパービジョンを理解する 24. ソーシャルワークの記録① 25. ソーシャルワークの記録② 26. 記録票への記入 27. 面接とは 28. 面接の技術① 29. 面接の技術② 30. 総合的・包括的なソーシャルワークをめぐる問題 31. まとめ 32. 期末考査	
〔使用テキスト・参考文献〕	ソーシャルワークの基盤と専門職 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ 学生・教員・実践者のためのソーシャルワーク演習 ミネルヴァ書房		

〔単位認定の方法及び基準〕	・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 査査点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、期末査査により算出する。 2. 平常点(15%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する。
----------------------	---

授 業 概 要

(社会福祉科)

授業科目名 ソーシャルワーク演習Ⅰ		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	
授業担当者 川本 公代		実務経験 訪問介護員 4 年 ディスクゴルフ指導員 3 年 レクリエーション・インストラクター 21 年	
授業の回数 16 回	時間数（単位数） 30 時間（1 単位）	配当学年・時期 1 年・後期	（ 必修 ・ 選択 ）
〔授業の目的・ねらい〕 ・これまで学んできた理論を基に専門職として実際の援助場面で活用していくためのスキルを主体的に学ぶ。 〔授業全体の内容の概要〕 ・他者と関わりながら、自己覚知から自己理解・他者理解へ到達し、相談援助者にふさわしい資質を向上させる。 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 ・演習における自己の観察から自己覚知しそれを文章化することができる。 ・言語的・非言語的コミュニケーションそれぞれの特性を知り他者の理解を深める。 ・事例をもとにストレングスやエンパワメントの視点で人と関わるができる。			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 コマ数 （15 回までの場合はセル結合）			
1. 自己理解と他者理解 2. 共感の意味と深さ 3. 価値観の違い 4. 言語的コミュニケーション・非言語的 コミュニケーション 5. ソーシャルワークの価値 6. ソーシャルワークの倫理 7. 記録技法 8. アセスメント		9. プランニング 10. ケースカンファレンス 11. 効果と評価測定 12. コミュニティワークのプロセス 1 13. コミュニティワークのプロセス 2 14. 傾聴 15. 受容の意味 16. 期末考査	
〔使用テキスト・参考文献〕		ソーシャルワーク演習ワークブック (株) みらい	
〔単位認定の方法及び基準〕		・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 査査点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の 6 割以上に達している点を評価する (10%)。	

授 業 概 要

(社会福祉科)

授業科目名 ソーシャルワーク演習Ⅱ		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 川本 公代		実務経験 訪問介護員 4 年 ディスクゴルフ指導員 3 年 レクリエーション・インストラクター 21 年	
授業の回数 16 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・後期	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] - これまで学んできた理論を基に専門職として実際の援助場面で活用していくためのスキルを主体的に学ぶ。 [授業全体の内容の概要] - 事例を理解し、グループで互いの考え方を知り意見交換を経て相談援助者にふさわしい資質を向上させる。高齢者との関わり方を学ぶ。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] - 事例研究から自分の考えを述べることができ、他者の考え方を理解できる。 - ソーシャルワーク実践における主要な技術を習得する。 - ソーシャルワークの過程における相談援助者の果たすべき役割を説明できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 多様性の理解 2. グループの理解 3. ネゴシエーション 4. ファシリテーション 5. スーパービジョン 6. 高齢者支援 準備 7. 高齢者支援 8. 高齢者支援		9. 地域の理解 10. ソーシャルアクション 11. 社会資源開発 12. インテーク・アセスメント 13. アウトリーチ 14. プランニング・モニタリング 15. エバリュエーション・ターミネーション 16. 期末考査	
[使用テキスト・参考文献]		学生・教員・実践者のためのソーシャルワーク演習 ミネルヴァ書房	
[単位認定の方法及び基準]		- 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考査点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。 2. 平常点(15%) - 授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5 %) - 提出課題において、到達目標の 6 割以上に達している点を評価する (10%)。	

授 業 概 要

(社会福祉科)

授業科目名 レクリエーション支援の方法Ⅰ		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 川本 公代		実務経験 訪問介護員 4 年 ディスクゴルフ指導員 3 年 レクリエーション・インストラクター 21 年	
授業の回数 30 回	時間数 (単位数) 60 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・通年	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] ・コミュニケーション能力の向上 ・人や自然と関わることの楽しさを実感し、レクリエーション計画に活かす。 [授業全体の内容の概要] 室内や屋外で楽しむことにより人を楽しませ、和ませる方法を会得する。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・いろいろなレクリエーションの素材を知り、実践に応用することができる。 ・楽しみながら学び、人を楽しませるためのレクリエーションを実施することができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 自己紹介ゲーム 2. 俳句を作り短冊に書く 3. カレンダー製作 (4 月～9 月) 4. 体を動かすレクリエーションⅠ 5. 楽しいゲーム 6. 自然の中で楽しむ (越後丘陵公園) 7. " 8. " 9. 自然の中で学ぶ (悠久山) 10. " 11. 振り返り 12. 新聞紙でタワーを作る 13. レクリエーションを考える 14. 先輩のレクリエーションを体験する 15. レクリエーションを披露する・振り返り		1. レクリエーションを計画する 1 2. レクリエーションを準備する 3. レクリエーション実施 4. レクリエーション実施 5. カレンダー製作 (10 月～3 月) 6. レクリエーションを実施する 7. クリスマスのカードを作る 8. クリスマスリースを作る 9. クリスマスパーティーを企画する 10. " 11. クリスマスパーティー 12. 折り紙で楽しむ 13. お手玉を作る 14. お手玉で遊ぶ 15. 振り返り	
[使用テキスト・参考文献]		ゲーム 204	
[単位認定の方法及び基準]		・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 査査点(60%) 到達目標の修得状況を測るために、作品提出により算出する。 2. 平常点(20%) ・授業時間において、到達目標の 6 割以上に達している点を評価する (40%)。	

授 業 概 要

(社会福祉科)

授業科目名 レクリエーション支援の方法Ⅱ		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 川本 公代	実務経験	訪問介護員 4 年 ディスクゴルフ指導員 3 年 レクリエーション・インストラクター 21 年	
授業の回数 30 回	時間数 (単位数) 60 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年・通年	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] ・いろいろな場所や季節を考慮したうえで楽しみを見つけてそれを具体的に表現できる。 ・レクリエーションを実施する過程で自分の役割を果たすことができる。 [授業全体の内容の概要] 室内や屋外での様々な体験をもとに仲間と協力して人を楽しませることができる。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・レクリエーション素材を場面によって上手く取り入れ、実践に応用することができる。 ・仲間と協力してレクリエーションを実施し、その効果を実感することができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 春の楽しみ方を考える 2. 春を楽しむ 3. カレンダー製作 (4 月～9 月) 4. 自然の中で楽しむための計画をたてる 5. " 6. 自然の中で楽しむ (越後丘陵公園) 7. " 8. " 9. 振り返り 10. 夏を楽しむレクリエーションを考える 11. 夏を楽しむ 12. レクリエーションを考える 13. レクリエーションを考える 14. 後輩にレクリエーションを披露する 15. 振り返り		1. カレンダー製作 (10 月～3 月) 2. 障害児と関わる 1 3. 障害児と関わる 2 4. 障害児と関わる 3 5. 障害児と関わる 4 6. 秋を楽しむレクリエーションを考える 7. クリスマスパーティーを計画する 8. クリスマスの飾りつけを考える 9. クリスマスグッズを考える 10. クリスマスを楽しむゲーム披露 11. クリスマスパーティー 12. 室内で行うレクを考える 13. 室内で行うレクを考える 14. 披露する 15. 振り返り	
[使用テキスト・参考文献]		ゲーム 204	
[単位認定の方法及び基準]		・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 査点(80%) 到達目標の修得状況を測るために、期末査査により算出する。 2. 平常点(20%) ・提出課題において、到達目標の 6 割以上に達している点を評価する (20%)。	

授 業 概 要

(社会福祉科)

授業科目名 高齢者福祉論		授業の種類 (☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 高橋 洋美	実務経験	高齢者施設にて生活相談員 3 年、歯科衛生士 3 年	
授業の回数 32 回	時間数 (単位数) 60 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年・通年	(☒ 必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 高齢者と家族等への支援について、総合的に理解する。 [授業全体の内容の概要] 高齢者と家族等への支援について学ぶ。グループワークや事例検討を通して理解を深める。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・ 高齢者を取り巻く状況について説明できる ・ 高齢者福祉に関する制度やサービス、関係機関・関連職種との連携について説明できる ・ 高齢者領域におけるソーシャルワーカーの役割・支援の実際について説明・考察できる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 高齢者の定義と特性 2. 少子高齢社会の到来 3. 高齢者の生活実態 4. 高齢者を取り巻く社会環境 5. 高齢者福祉の歴史① 6. 高齢者福祉の歴史② 7. 高齢者福祉の理念 8. 介護保険制度の概要① 9. 介護保険制度の概要② 10. 地域支援事業 11. 介護保険サービス①居宅サービス 12. 介護保険サービス②介護予防サービス 13. 介護保険サービス③施設サービス 14. 老人福祉法 15. まとめ 16. 期末考査		17. 高齢者医療確保法 18. 高齢者虐待防止法 19. バリアフリー法 20. 高齢者住まい法 21. 高齢者雇用安定法 22. 育児・介護休業法 23. 関係機関の役割① 24. 関係機関の役割② 25. 関係機関の役割③ 26. 関連する専門職種の役割 27. 高齢者領域におけるソーシャルワーカーの役割① 28. 高齢者領域におけるソーシャルワーカーの役割② 29. 高齢者と家族等に対する支援の実際① 30. 高齢者と家族等に対する支援の実際② 31. まとめ 32. 期末考査	
[使用テキスト・参考文献]		中央法規出版 『最新 社会福祉養成講座 2 高齢者福祉』	
[単位認定の方法及び基準]		・ 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 査点(85%) 期末考査により算出する。 2. 平常点(15%) 授業での発言や参加態度を評価する。	

授 業 概 要

(社会福祉科)

授業科目名 福祉サービスの組織と経営		授業の種類 (☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 名地 宙	実務経験	・ 病院・介護老人保健施設・デイサービス等において、ソーシャルワーカーとして勤務。ご利用者・ご家族からの相談及びサービス提供、各関係専門機関との連携・調整業務を担当。 ・ 若者サポート支援センターにて、相談員として勤務。ご利用者からの相談、各専門プログラムの提供、就労定着支援業務を担当。	
授業の回数 30 回	時間数 (単位数) 60 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年・後期	(☒ 必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] ・ 福祉サービスにかかわる組織や団体の概要と役割を把握する ・ 集団の力学やリーダーシップを中心とした福祉サービスの組織と経営の基礎理論を理解する ・ 福祉サービスの運営管理の方法をサービス管理・人事労務管理と育成・財務管理・情報管理から総合的に理解する。 [授業全体の内容の概要] ・ 授業は、テキストをメインに教員が作成した資料を補助として使用する ・ 社会福祉法関連法制に関しては、福祉六法を使用し、条文の確認を行う ・ 自分の居住地の社会福祉法人・NPO法人・医療法人にはどのようなものがあるか、社会資源調査を行う [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・ 社会福祉法人やNPO法人等経営の現状と課題を説明できる (法律含む) ・ 集団やリーダーシップのあり方を述べることができる ・ リスクマネジメントや人事育成・労務管理と経営との関連性を説明できる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15 回までの場合はセル結合)			
1. 福祉サービスと法人について 2. 法人の理解 3. コンプライアンス・ガバナンス・社会福祉法人について① 4. 社会福祉法人について② 5. 社会福祉法人について③ 6. 社会福祉法人について④ 7. 社会福祉法人について⑤ 8. 特定非営利活動法人について① 9. 特定非営利活動法人について② 10. その他の組織について① 11. その他の組織について②		16. 組織について 17. 管理運営の基礎理論、個人・集団・組織 18. 集団の力学に関する基礎理論 19. 集団の負の側面、リーダーシップに関する基礎理論① 20. リーダーシップに関する基礎理論② 21. サービスマネジメントについて 22. 4つのPと3つのP 23. 福祉サービス第三者評価事業について 24. 苦情対応とリスクマネジメント① 25. 苦情対応とリスクマネジメント② 26. 人事労務管理について①	

12. その他の組織について③ 13. 福祉サービスの組織と経営基礎理論① 14. 福祉サービスの組織と経営基礎理論② 15. 経営戦略論の系譜について	27. 人事労務管理について② 28. 人事労務管理について③ 29. 労働法規について 30. 財務管理・会計管理について 期末考査
〔使用テキスト・参考文献〕	『福祉サービスの組織と経営』 中央法規 2021 年 2 月発行 価格 2,750 円 ISBN978-4-8058-8244-3
〔単位認定の方法及び基準〕	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 査点(85%) ・到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では、居眠りをしているか授業に積極的に参加しているかについて評価する (10%) ・提出課題がある場合において、期日までに提出されているかを重点に評価する (5%)

授 業 概 要

(社会福祉科)

授業科目名 福祉住環境コーディネーター		授業の種類 (☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 名地 宙	実務経験	・ 病院・介護老人保健施設・デイサービス等において、ソーシャルワーカーとして勤務。ご利用者・ご家族からの相談及びサービス提供、各関係専門機関との連携・調整業務を担当。 ・ 若者サポート支援センターにて、相談員として勤務。ご利用者からの相談、各専門プログラムの提供、就労定着支援業務を担当。	
授業の回数 30 回	時間数 (単位数) 60 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	(☒ 必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] ・ 福祉住環境に関する基礎知識を学ぶ。 ・ 福祉住環境コーディネーター3 級の合格。 [授業全体の内容の概要] ・ 授業は、テキストをメインに教員が作成した資料を補助として使用する ・ 過去問演習に関しては、グループになり実施する [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・ 過去問正答率 80%以上			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15 回までの場合はセル結合)			
1. 検定試験について 少子高齢社会と共生社会への道 2. 福祉住環境整備の重要性・必要性 3. 在宅生活の維持とケアサービス 4. 第 1 章テスト 5. 高齢者の健康と自立 6. 障害者が生活の不自由を克服する道 7. 第 2 章テスト 8. バリアフリーとユニバーサルデザインを考える 9. 生活を支えるさまざまな用具 (1) 10. 生活を支えるさまざまな用具 (2) 11. 第 3 章テスト 12. 住まいの整備のための基本技術 13. 生活行為別に見る安全・安心快適な住ま		16. 安心できる住生活 17. 安心して暮らせるまちづくり 18. 第 5 章のテスト 19. 第 36 回 (過去問) 20. 第 37 回 21. 第 38 回 22. 第 39 回 23. 第 40 回 24. 第 41 回 25. 第 42 回 26. 第 43 回 (過去問の年度は変更可能性あり) 27. 予想模試 1 回 28. 予想模試 2 回 29. 予想模試 3 回 30. まとめ・振り返り	

い 14. 第 4 章のテスト 15. ライフスタイルの多様化と住まい	期末考査
[使用テキスト・参考文献]	東京商工会議所著 『福祉住環境コーディネーター検定 3 級 公式テキスト』 東京商工会議所発行 2022 年 2 月発行 価格：2,500 円＋税 ISBN978-4-924547-65-0
[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 査点(85%) ・到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では、居眠りをしているか授業に積極的に参加しているかについて評価する (10%) ・提出課題がある場合において、期日までに提出されているかを重点に評価する (5%)

授 業 概 要

(社会福祉科)

授業科目名 地域福祉と包括支援体制		授業の種類 (☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 名地 宙	実務経験	・病院・介護老人保健施設・デイサービス等において、ソーシャルワーカーとして勤務。ご利用者・ご家族からの相談及びサービス提供、各関係専門機関との連携・調整業務を担当。 ・若者サポート支援センターにて、相談員として勤務。ご利用者からの相談、各専門プログラムの提供、就労定着支援業務を担当。	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	(☒ 必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] ・地域福祉の基本的な概念や理念について理解する ・外国における地域福祉のあゆみ・日本における地域福祉のあゆみについて理解する (地域福祉の歴史・地域福祉研究者による福祉理論) ・地域福祉の役割と実際、活動について理解する (地域福祉にはどのような専門機関・専門職団体が存在し、どのような活動を行っているか。どのような専門職が存在するか、地域福祉計画についての理解) [授業全体の内容の概要] ・授業は、テキストをメインに教員が作成した資料を補助として使用する ・地域福祉の動向等に関しては必要な情報を検索し把握する。社会福祉関連法制に関しては、福祉六法を使用し、条文の確認を行う ・CSW として活動している豊中市社会福祉協議会・勝部麗子氏の動画を視聴する [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・地域福祉の基本的な概念や理念について説明することができる。 ・諸外国や日本における地域福祉の歴史や理論について説明することができる。 ・地域福祉に実際に存在する専門機関・専門職団体・専門職について機関等のそれぞれの役割や活動について説明することができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15 回までの場合はセル結合)			
1. 地域福祉の定義、理念、海外における地域福祉の起源について 2. 海外の地域福祉・イギリスにおける地域福祉の発展について 3. 海外の地域福祉・アメリカにおける地域福祉の発展について 4. イギリスと日本におけるコミュニティケアの発展について 5. イギリスと日本におけるコミュニティケアの発展について		7. 社会福祉協議会の成立・経過～日本の地域福祉諸政策について 8. 地域福祉の主体と対象、活動内容について 9. 地域福祉の推進における法制 (社会福祉法) 10. 地域福祉に係る組織、団体について① 11. 地域福祉に係る組織、団体について② 12. 地域福祉に係る専門職について 13. 地域福祉における社会資源や福祉ニーズの把握方法について 14. 地域福祉における福祉サービスの評価・向	

6. 前半：日本における地域福祉理論について 後半：C S W勝部麗子氏の動画視聴	上の取り組み 15. 福祉のまちづくりと福祉教育について 期末考査
[使用テキスト・参考文献]	・山本美香著 『地域福祉と包括支援体制』 株式会社弘文堂 2022 年 3 月発行 価格：2,500 円＋税 ISBN-10 433561215X
[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考査点(85%) ・到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では、居眠りをしているか授業に積極的に参加しているかについて評価する (10%) ・提出課題がある場合において、期日までに提出されているかを重点に評価する (5%)

授 業 概 要

(社会福祉科)

授業科目名 貧困に対する支援		授業の種類 (☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 名地 宙	実務経験	・病院・介護老人保健施設・デイサービス等において、ソーシャルワーカーとして勤務。ご利用者・ご家族からの相談及びサービス提供、各関係専門機関との連携・調整業務を担当。 ・若者サポート支援センターにて、相談員として勤務。ご利用者からの相談、各専門プログラムの提供、就労定着支援業務を担当。	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 3 0 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	(☒ 必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 1 公的扶助の理論の概要を把握する 2 国家試験に合格するための基礎学力を身に着ける [授業全体の内容の概要] 担当科目の内容を理解できるよう要点を絞ったプリントを使い解説し、基礎的な内容を把握できるよう確認試験を解答させる [授業終了時の達成課題 (到達目標)] 1 過去問が解けるようになる 2 確認試験で知識を確実に身に付ける 3 生活保護制度の現状についてのビデオを鑑賞する			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15 回までの場合はセル結合)			
1. 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要の実際Ⅰ 2. 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要の実際Ⅱ 3. 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要の実際Ⅲ 4. 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要の実際Ⅳ 5. ビデオ視聴学習、感想を書いてもらう 6. 生活保護制度 生活保護法の概要Ⅰ		8. 生活保護制度 生活保護法の概要Ⅱ 9. 生活保護制度 生活保護法の概要Ⅲ 10. 生活保護制度 生活保護法の概要Ⅳ 11. 生活保護制度 生活保護法の概要Ⅴ 12. 生活保護制度 生活保護法の概要Ⅵ 13. 生活保護制度 生活保護法の概要Ⅶ 14. 生活保護制度 生活保護法の概要Ⅷ 15. ふりかえり 期末考査	
[使用テキスト・参考文献]		・社会福祉士養成講座編集委員会著 『貧困に対する支援』 株式会社 中央法規 2021 年 2 月発行 価格：2,750 円 (税込み) ISBN 978-4-8058-8247-4	

[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 査査点(85%) ・到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末査査により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では、居眠りをしているか授業に積極的に参加しているかについて評価する (10%) ・提出課題がある場合において、期日までに提出されているかを重点に評価する (5%)
---------------	--

授 業 概 要

(社会福祉科)

授業科目名 貧困に対する支援		授業の種類 (☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 名地 宙	実務経験	・病院・介護老人保健施設・デイサービス等において、ソーシャルワーカーとして勤務。ご利用者・ご家族からの相談及びサービス提供、各関係専門機関との連携・調整業務を担当。 ・若者サポート支援センターにて、相談員として勤務。ご利用者からの相談、各専門プログラムの提供、就労定着支援業務を担当。	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 3 0 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	(☒ 必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 1 公的扶助の理論の概要を把握する 2 国家試験に合格するための基礎学力を身に着ける [授業全体の内容の概要] 担当科目の内容を理解できるよう要点を絞ったプリントを使い解説し、基礎的な内容を把握できるよう確認試験を解答させる [授業終了時の達成課題 (到達目標)] 1 過去問が解けるようになる 2 確認試験で知識を確実に身に付ける 3 生活保護制度の現状についてのビデオを鑑賞する			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15 回までの場合はセル結合)			
1. 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要の実際Ⅰ 2. 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要の実際Ⅱ 3. 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要の実際Ⅲ 4. 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要の実際Ⅳ 5. ビデオ視聴学習、感想を書いてもらう 6. 生活保護制度 生活保護法の概要Ⅰ		8. 生活保護制度 生活保護法の概要Ⅱ 9. 生活保護制度 生活保護法の概要Ⅲ 10. 生活保護制度 生活保護法の概要Ⅳ 11. 生活保護制度 生活保護法の概要Ⅴ 12. 生活保護制度 生活保護法の概要Ⅵ 13. 生活保護制度 生活保護法の概要Ⅶ 14. 生活保護制度 生活保護法の概要Ⅷ 15. ふりかえり 期末考査	
[使用テキスト・参考文献]		・社会福祉士養成講座編集委員会著 『貧困に対する支援』 株式会社 中央法規 2021 年 2 月発行 価格：2,750 円 (税込み) ISBN 978-4-8058-8247-4	

[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 査査点(85%) ・到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末査査により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では、居眠りをしているか授業に積極的に参加しているかについて評価する (10%) ・提出課題がある場合において、期日までに提出されているかを重点に評価する (5%)
---------------	--

授 業 概 要

(社会福祉科)

授業科目名 児童・家庭福祉		授業の種類 (☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 名地 宙	実務経験	・病院・介護老人保健施設・デイサービス等において、ソーシャルワーカーとして勤務。ご利用者・ご家族からの相談及びサービス提供、各関係専門機関との連携・調整業務を担当。 ・若者サポート支援センターにて、相談員として勤務。ご利用者からの相談、各専門プログラムの提供、就労定着支援業務を担当。	
授業の回数 30 回	時間数 (単位数) 60 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年・前・後期	(☒ 必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] ・最近の子どもや家庭を取り巻く環境について理解する ・児童福祉や権利保障の歴史をふまえ、我が国の児童家庭福祉施策の全体像を理解する ・多岐に渡る児童に関する法律や制度を把握し理解する ・様々な問題に対応する児童相談所や市町村の対応について理解する ・社会的養護としての児童福祉施設・里親について理解する [授業全体の内容の概要] ・授業は、テキストをメインに教員が作成した資料を補助として使用する ・少子化の動向や虐待の件数に関しては、国の資料等を検索し把握する。児童福祉関連法制に関しては、福祉六法を使用し、条文の確認を行う ・児童福祉施設、児童虐待、DV、里親制度等に関しては、補助資料としてDVDを視聴し、理解を深める [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・子どもや家庭を取り巻く現状や課題 (貧困・虐待・DV等) について説明できる ・我が国や諸外国における児童関連法規、児童福祉施策や権利保障について説明できる ・児童相談所の活動内容や役割等について説明できる ・児童福祉施設や里親制度について説明できる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15 回までの場合はセル結合)			

1. 子ども家庭を取り巻く社会情勢と生活実態について 2. 子ども家庭福祉とは 3. 子どもと家庭の権利保障 4. 日本の子ども家庭福祉の歴史① 5. 日本の子ども家庭福祉の歴史② 6. 欧米の子ども家庭福祉の歴史 7. 子ども家庭福祉の法体系① 8. 子ども家庭福祉の法体系② 9. 子ども家庭福祉の法体系③ 10. 子ども家庭福祉の法体系④ 11. 改正『児童福祉法』について 12. 子ども家庭福祉の実施体制① 13. 子ども家庭福祉の実施体制② 14. 児童福祉施設の体系について 15. 母子保健・医療サービス 期末考査	17. 子育て支援と子どもの健全育成 18. 少子化対策の動向 19. 子どもの健全育成施策・保育サービスについて 20. 子ども・子育て新制度における子ども・子育て支援について 21. ひとり親家庭への福祉サービス 22. ドメスティックバイオレンスの現状 23. 子どもの社会的養護 24. 児童虐待の現状 25. 児童虐待への対応 26. 児童虐待・DVに関する動画の視聴 27. 障害のある子どもと家庭への福祉サービス 28. 情緒・非行問題のある子どもと家庭への福祉サービス 29. 非行問題のある子どもの現状と対応 30. スクールソーシャルワーカーについて 期末考査
[使用テキスト・参考文献]	・千葉喜久也著 『児童・家庭福祉論』 株式会社みらい 2018年3月1日発行 価格：2,200円＋税 ISBN978-4-86015-358-8
[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 査点(85%) ・到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では、居眠りをしているか授業に積極的に参加しているかについて評価する (10%) ・提出課題がある場合において、期日までに提出されているかを重点に評価する (5%)

授 業 概 要

(社会福祉科)

授業科目名 コミュニケーション実践		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	
授業担当者 高橋 洋美		実務経験	高齢者施設にて生活相談員 3 年、歯科衛生士 3 年
授業の回数 16 回	時間数（単位数） 30 時間（1 単位）	配当学年・時期 1 年・後期	（ 必修 ・ 選択 ）
[授業の目的・ねらい] ・自己覚知と聴くことの大切さを知りコミュニケーションを図ることができる。 ・基本的なビジネスマナーを身に付ける。 [授業全体の内容の概要] ・グループワークで自己覚知を学ぶ。 ・社会人としての知識の習得を深め、時間内のテストで理解度を確認する。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] ・ビジネスマナーが身についた言動ができる。 ・自分を理解した上で相手の気持ちを受けとめた関わりができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. コミュニケーションとは何かを知る 2. 自分を知る 3. 自分の世界を広げる 4. 相手を理解する 5. 聴く技術を知る 6. 心理学を活かしたコミュニケーションを学ぶ 7. 適切なコミュニケーションを図ることができる 8. 働く意識を持つ		9. プロ意識を高める 10. 仕事中の態度とマナーを学ぶ 11. 職場での基本ルールとマナーを学ぶ 12. 指示の受け方と報告・連絡・相談 13. 介護施設・福祉施設のマナー 14. 在宅のマナーを理解する 15. 挨拶と身だしなみの基本がわかる 16. 期末考査	
[使用テキスト・参考文献]		日本能率協会マネジメント協会『介護福祉スタッフマナー基本テキスト』	
[単位認定の方法及び基準]		・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考査点(85%) 期末考査により算出する。 2. 平常点(15%) 授業での発言や参加態度を評価する。	

授 業 概 要

(学科)

授業のタイトル（科目名） ソーシャルワークの基盤と 専門職		授業の種類 （ <u>講義</u> 演習 ・実技）		授業担当者 川本公代
授業の回数 30 回	時間数（単位数） 60（2 単位）	配当学年・時期 1 年 後期		<u>必修</u> ・選択
[授業の目的・ねらい] ・ ソーシャルワークとは何かを理解する。 ・ ソーシャルワーカーの仕事や意義について知る。 ・ ソーシャルワークの展開の歴史を理解する。 ・ ソーシャルワークにおける倫理の必要性について理解する。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] ・ ソーシャルワークとは何かを説明できる。 ・ 社会福祉士の定義や義務・連携について法律を挙げて説明できる。 ・ ソーシャルワークの発展と展開の歴史についてその過程と重要人物を挙げて説明できる。 ・ ソーシャルワーカーになぜ倫理が必要かを説明できる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1 ソーシャルワークとは何か 人生体験の振り返り・未来予測→ソーシャルワークが社会的支えであることを理解する 2 社会福祉とソーシャルワーク 社会福祉の基盤となる考え（日本国憲法） 社会とのつながり・社会福祉とソーシャルワークの関係 3 ソーシャルワークが求められる社会状況 様々な生活問題を知る（調べる） 社会的要因・ソーシャルワークの必要性 4 ソーシャルワークの視点と役割 生活や生き方を支える・人と環境の関係性 5 ソーシャルワークが行われる場所 様々な場所や分野・専門職の活躍する場所・仕事（調べる・まとめる） 6 専門職の活躍する場所・仕事についてまとめ・発表 7 ソーシャルワークとソーシャルワーカー 仕事と意義・やりがい 8 ソーシャルワーカーの資格 国家資格の必要性 介護福祉士・精神保健福祉士（制定と法律の理解） 9 社会福祉士の役割と仕事 社会福祉士及び介護福祉士法の理解（調べる） 問題作成 10 問題作成続き ①解く②解説③国家試験問題にチャレンジ 11 ソーシャルワーカーの専門性 理想のソーシャルワーカー像（まとめる） 12 模造紙にまとめる・発表 13 ソーシャルワーカーを支える職能団体 活動・意義・役割 社会福祉士の行動規範 14 ソーシャルワークのグローバル定義 内容の理解（果たすべき務め・行動・知識・実践） 15 ソーシャルワークの誕生 社会状況・COS とセツルメント運動の違い 16 問題作成 ①解く②解説③国家試験問題にチャレンジ 17 ソーシャルワークの発展 各派の考え方の違い 発展の過程 問題作成 18 問題作成続き ①解く②解説③国家試験問題にチャレンジ 19 現在のソーシャルワーク 個人と社会を支える視点・ジェネラリスト・ソーシャルワーク 20 問題作成 ①解く②解説③国家試験問題にチャレンジ 16～19 のまとめ 21 ソーシャルワークを支える理念 一人ひとりの生活を支援する 22 DVD鑑賞 感想をまとめる 発表 23 利用者本位とは何か バイステックの7原則				

24 自立支援とは何か 25 ノーマライゼーションと社会的包摂 自殺の現状 26 ソーシャルワークにおける倫理 定義・専門性との関係・倫理が必要な理由 27 専門職と倫理綱領・倫理的ジレンマ 28 個人や集団にかかわる・地域を対象とするソーシャルワーク 29 スーパービジョンとコンサルテーション 30 まとめ	
[使用テキスト・参考文献] ソーシャルワークの基盤と専門職（ミネルヴァ書房）	[単位認定の方法及び基準] ・教科出席率が70%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(90%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。 2. 平常点(10%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する（10%）。